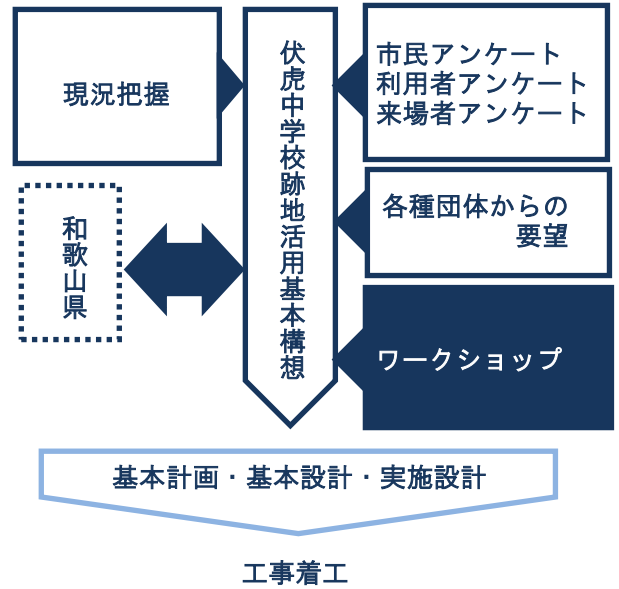


# 伏虎中学校跡地に移転予定の 新たな市民会館を考えるワークショップ

和歌山市は、伏虎中学校跡地に市民会館の移転や、和歌山県立医科大学の薬学部を誘致することを検討しているため、施設整備の方針を示す「伏虎中学校跡地活用基本構想」の作成を進めています。

本ワークショップは、計画の初期段階である基本構想づくりから、市民や利用者の意見をお聞きしていくために、市民アンケートとともに実施するものです。

ワークショップは、移転する新たな市民会館のあり方・施設概要を様々な市民・利用者の視点から検討するものとし、その多様な考え方・結果は、基本構想づくりの基礎資料としていきます。



発行：和歌山市 総務局 企画部 企画課  
和歌山市 教育委員会事務局 生涯学習部 文化振興課

## 第4回

平成27年9月8日  
市民会館 (19:00～)

市民会館をどう使い、何を実現したいですか？！



当日の参加者26人、5つのグループに分かれて着席。市から挨拶後、総合アドバイザー濱田先生の挨拶、その後、アドバイザーの渡部先生より公共施設の運営に関わる話題提供を頂きました。その後、グループごとの話し合いを進め、最後に総合アドバイザーの濱田先生からこれまでのまとめについてご意見を頂きました。

### 総合アドバイザーの挨拶

総合アドバイザーの濱田先生より、第1、2回は条件を設けず話しあったことは、そのまま形になりませんが重要な意見であること、今後は、敷地条件などを踏まえ、ホール3つを2つにした場合、どうしたいかというような要約的な議論について活発な意見交換をお願いしますとする挨拶を頂きました。



元和歌山大学システム工学部特任教授  
NPO 法人街づくり支援センター代表  
濱田学昭氏

### アドバイザーの話題提供

これまで図書館建設や体育館建設に携わってこられた渡部先生より、利用される公共施設のあり方についてお話を頂きました。

日本一の本の貸し出し量を誇る図書館や来訪者を魅了する動物園などの事例から、必要とされるニーズを真剣に考え続けることが重要であるとし、文化施設としても可児市文化創造センター（岐阜県可児市）やホルトホール（大分県大分市）で活躍されている館長の話を頂きました。

最後に成否の鍵は「人」であり、市民会館には専門性の高い人材が必要であること、ぶれないコンセプトをもって人を配置し、地域と関わっていくことが求められているとのご意見を頂きました。



和歌山大学附属図書館館長  
渡部幹雄（わたなべみきお）氏



## グループワーク

5 つに分かれたグループワークでは、情報提供で話された市民会館の運営についての感想や、新たな市民会館の運営について具体的に話し合いました。

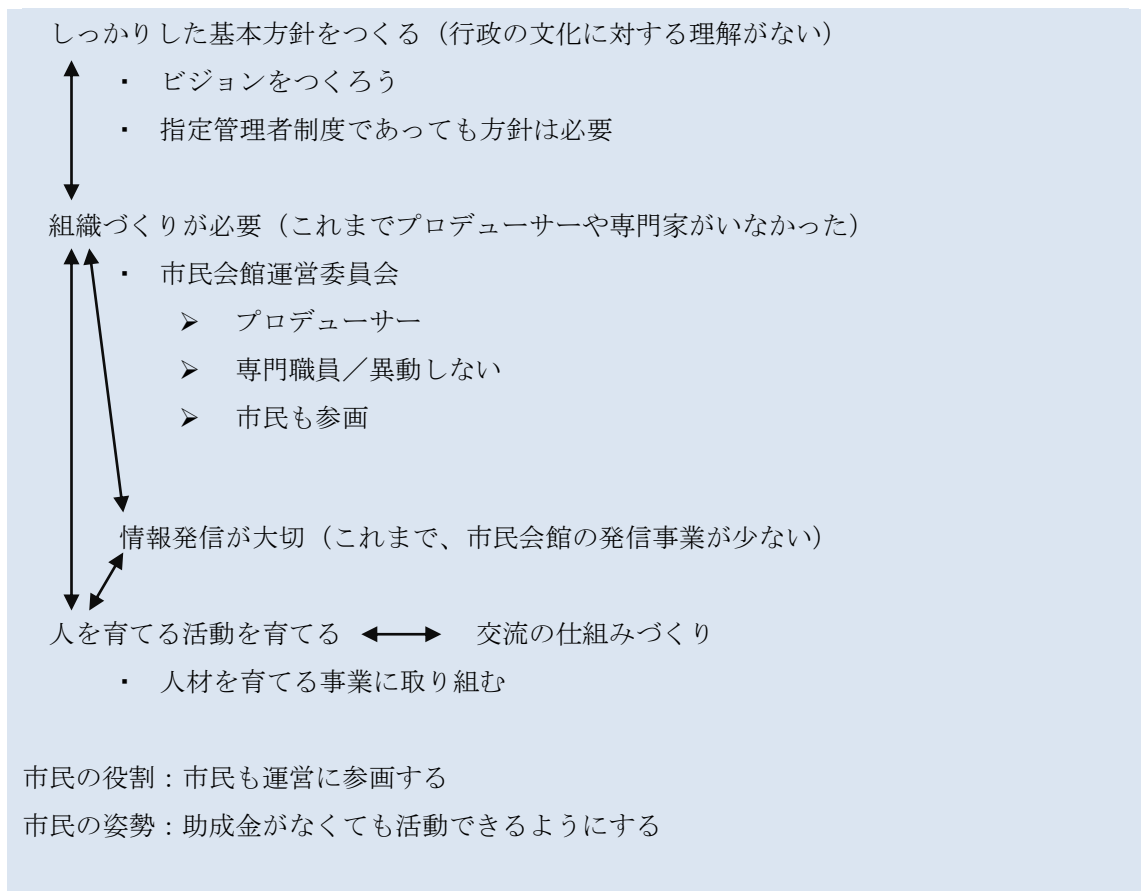
## 話し合いの内容

各チームで市民会館の運営に関わることを話し合いました。それぞれのチームに考え方の違いはあるものの、今後いかに市民の文化を育てていくのかといった市のビジョンや計画が必要とする意見や、人を積極的に発掘して育てていこう、そういったことを持続的に考えていく人材や組織が必要であるとする意見などは 2～3 チームで共通していました。



## 5 つのグループで議論した内容

### A グループ



## B グループ

### 交流を生む場

用事がなくても立ち寄れる場にする

- ・無料で時間に制約ない
  - ・市民総参加できるスペース
  - ・休館日でも過ごせる場所
- お城利用者の取り込み
- ・お城に来た人がくつろげる場
  - ・朝早くから使える場
- 食事をする場
- ・商業施設の整備

### ふさわしい人材配置

- ・展示専門スタッフ
- ・継続的に和歌山の文化を考えていける職員スタッフ  
(和歌山の文化に責任を持つくらいの気持ち)

### 若い人材を見つけ育てる

- ・音楽、芸能など若い次世代を発掘するプロジェクトの実施

## C グループ

### ○運営のための組織づくり

- ・和歌山市文化芸術家協会（全体ネットワーク）を設立
- ・和歌山市音楽家協会を設立 会費を納めて資金確保
- ・それぞれに小さな団体が乱立
- ・それらをネットワーク（新協会）してミュージアム運営を
- ・県民文化会館との棲み分け、ゆずりあい（運営マネジメント）

### ○人材

- ・技術的なノウハウのある専門性の高い人材
- ・展示室の管理ノウハウのある人材を配置

### ○地域全体

- ・ぶらくり丁も市民が賑わいづくりをしている
- ・土地全体を活性化
- ・興味のない人に来てもらえる工夫を
- ・お城を中心としたエリアで観光客も利用できるような仕掛け
- ・ボランティアを誰がするのか課題

### ○文化振興ビジョン

- ・中長期的なビジョンが必要
- ・現市民会館は、施設の維持／管理に資金投入してこなかった→だから 30 年でダメになる
- ・和歌山市として文化振興計画を策定する必要がある

### ○その他

- ・ピアノコンサートなら 300 席、オーケストラなら 800 席など要望が違う
- ・ホールの稼働率だけを問題にしているのか
- ・ポップス系アーティストは来ない→何かに特化する必要がある→多額の資金を投入して整備しても 10 年後はもたない
- ・現実、今のホールは観光産業、商業、福祉、芸術と多機能を求められる
- ・ワークショップは総論ばかり、活動している人たちは各論ありき
- ・音楽や演劇は回数が少ないが、美術展示は期間が長い

## Dグループ

### 人材

- 優秀な人を集めて運営に向けたプロジェクトを立ち上げてはどうか。人材がまとまると力が発揮される。運営のプロ（専門家）が必要だ。
- 人探しは大変だと思う。和歌山で活動している人や和歌山のことを良く知っている人（和歌山出身者で全国的に活躍している人）を集めて話を聞くことから始めてはどうか。そこから展開していくことも考えられる。
  - ラクルアンドシエルのボーカル（ハイド）は和歌山出身
- 市内で開かれている個展の作者や演劇・音楽の演者からプロデューサー候補となる人を探してはどうか。
- ホールを使う人を育てるために裏方となる人は固定しておく方がよい。
  - 現在は、頻繁に裏方の人が変わる。
- 一方で、和歌山の優秀な人はあまりまとまりがない。（和歌山の人間の気質と関係も）



### お金

- お金を生み出せる仕組みが必要
  - 現在は、うまくいっていない大きな原因のひとつは予算不足。



### 館長

- 文化に情熱のある人が館長になって欲しい。
- 今回のような話し合いの機会は建物が出来た後も継続すべきだ。
  - 現在の市民会館が出来た時は、設計のコンペもあったし、運営委員会もあった。

### その他

- 現状はあまり使われていない。もっと使われるような施設にしてほしい。
- 人を集めるためには駐車料が高い。市民が気軽に使えるようにしてほしい。

## Eグループ

### 運営（活用、仕掛け、企画、工夫）

“素敵なお日”（1/365日）と日々の利用（364/365日）を考える

- ・ ランニングコストがかからないようにする
  - どのくらいの利用でどのくらいかかるのかをあわせて考える
  - 利益を考えないといけない
  - 本当に良いものをやれば人は来るのでは
  - キャンパだけの問題で出来ない企画がないように考えておく
  - ある程度はボランティアなどの運営を考える
- ・ 本当に必要なものを検討
  - はじめにつくっておかなければいけないものは何か
  - アクセスはもっと大きな問題
  - 次世代となる若手の意見を聞く

創作活動の場+プロ仕様の場 とすることが重要

- ・ 創作活動はローカル優先がよいのでは
- ・ 創作活動の場として継続利用してもらうことで安定的な運営を図る→そのための仕掛けとして貸ロッカーなどを考える
- ・ プロが演じる場（鑑賞の場）としての利用をあわせて考えることで、創作活動をするものが、プロが演じる場、またプロが展示する素敵なところで発表・展示できる喜びが大切。それが文化を育てることにつながる。

他の施設との役割分担を考えておく

- ・ 県文といっしょにするのか、役割分担をするか
- ・ アートキューブで創作→市民会館で発表という役割分担を描いている。
- ・ 市民会館を創作の場にしたいとの意見もある

会議で多くの人が集まる利用を考えておく

- ・ 他府県の方が来て利用できる場になる
- ・ ホテルなどにも波及効果がある
- ・ 800人の集まりに対応するホテルがない

防災面での位置づけが必要

- ・ 避難場所として位置づけ、災害時開放して活用できよう施設にする

## 総合アドバイザーのまとめ

総合アドバイザーの濱田先生より、今回は「これはあきらめてもこれは頑張してほしい」というような議論をして頂きたいとの話がありました。

市民会館建設の課題として①ホールの建築・設備の計画は非常に高度な技術を要するものであること②文化的な核となるよう市民のみなさんで文化活動を育てて発信していくこと③周辺に影響を与えるような、まちの中心部の魅力施設となること④薬学部と併設していくことなどがありますので、これらを諸条件として検討して頂きたいとの話がありました。

